

富良野市教育委員会だより

ZEROふらの

発行：富良野市教育委員会
 住所：富良野市弥生町1番1号
 電話：0167-39-2320
 FAX：0167-23-3528
 Email：kyouiku-ka@city.furano.hokaido.jp

教育委員会の活動

2月3日 布部小中学校閉校式 行われました



明治42年の開校以来、小学校1684名、中学校1456名の卒業生を送り出し、布部地域とともに歴史と伝統を築いてこられた富良野市立布部小中学校が、114年にもわたる歴史に幕をおろすこととなり、2月3日に閉校式が挙行されました。

令和6年3月31日をもって布部小中学校は閉校し、こどもたちは統合先の学校に通学することになりますが、今後もふるさと富良野に愛着と誇りを持ち、豊かな自然と、人と人のあたたかい絆の中で、心豊かでたくましく成長できるよう、教育委員会は教育環境づくりの推進に努めてまいります。

布部小中閉校式について～教育委員より

2月3日。布部小中閉校式に出席しました。3人の在校生徒による「お別れの言葉」。突然、「言わないとダメですか」と意表を突いた台詞で、生徒達と教職員、まさに布部小中ワンチームが演じきった感動的な演出に、胸が震え、最後まで涙が止まりませんでした。まさに圧巻でした。

そして2月14日。ついに最後の剣道授業の日を迎えました。布部小中学校の武道「剣道」の授業講師を頼まれたのは、令和元年の事。当時の教頭K先生から「体育担当の教員が移動になったので、授業を手伝ってほしい。」と相談され、引き受けました。初年度の対象者は中学生6名に5日間10時間。緊張しながら慣れない授業に挑んだ日から5年。永きに関われた事に感謝です。

(次ページへ続く)



最後の授業には、在校生3名の他、校長、教頭、教職員のみならず、そしてPTA（1名）。布部小中ワンチームで受講してくれました。本授業の最後は、実戦の立合い「互角稽古」です。R君対A先生の因縁の師弟対決。Nさん対父さんの親子対決など、笑いあり、涙あり。それでいて見応えのある正々堂々とした、立派な立ち合いを、全員が見事に演じてくれました。しかと見届けました。さすが布部小中ワンチーム。只々、感銘致しました。

布部小中学校が閉校する事は寂しい事ですが、閉校式の「お別れの言葉」に、剣道の最終授業「互角稽古」、双方で得た感動は、永遠に忘れられない思い出として、深く心に刻まれました。布部小中学校、本当にありがとうございました。そして114年の永きに渡り、お疲れさまでした。
(文責 津山委員)

教育長通信 ～家庭教育の支援と充実に向けて

今年度、社会教育委員からいただいた「人権教育の基盤は家庭教育にある」とのご意見を基本に、家庭教育の支援と充実についての考えを述べさせていただきます。

家庭教育は、乳幼児期からの家族との触れ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力・基本的倫理感などを身に付ける重要な役割を担っています。しかしながら、近年は、家庭を取り巻く環境の変化により、子育てに不安や負担感を抱く親の増加が指摘され、家庭の教育力の低下が危惧されるとともに、ストレスなどから児童虐待等も発生しております。家庭において、子どもの人権を尊重し、豊かな人間性を育む教育を行うためには、家庭教育を行う側の保護者が安心して子育てできる環境づくりに向けた支援が必要と考えます。そして、家庭教育の支援にあたっては、行政だけではなく、市民一人一人の活動、子育てネットワークや子育て支援団体などが連携して取り組む必要があり、子育てを社会全体で支える仕組み＝子育ての社会化を醸成することが大切と考えます。

また、家庭教育の充実を図るためには、学びの場づくりの工夫も重要であり、参加者が主体的に学び合うことができるような工夫や、人が集まるところに出向いた研修も有効な方法です。そして、社会全体が世代を超えてつながり、共に考え、行動していくことが必要と考えます。

教育基本法では、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」とされています。このような家庭教育を実現するためには、地域社会全体がつながりを持ち支え合うことが大切であり、公民館を活動拠点とした社会教育は、まさにこの役割を担うものでありますので、市教育委員会はこれからも家庭教育を支援充実させるためにも社会教育の充実と学校教育との連携強化を進めていきたいと考えています。

(分責 近内教育長)

教育委員通信 ～地域で支えるヤングケアラー～

7月18日 令和5年度富良野市PTA連合会研修会がサンエーホールで開催されました。今年度は北海道社会福祉協議会ケアラー支援推進センター長中村健治さん、合同会社Fサポート 代表社員 吉田綾子さんを講師としてお迎えし「地域で支えるヤングケアラー」と題してご講演頂きました。「ヤングケアラー」とはイギリスで生まれた言葉で大人が担うようなケア責任を引き受け家族の世話（介護、感情、家計のサポート）を行っている18歳未満の子どものことを指します。

いわゆるお手伝いとの違いは、生活が制限され学びや育ちに影響がある事。就職や進学結婚を諦める人も少なくないとお話でした。

ヤングケアラーが生まれる背景として核家族が増えたことによる介護を担う人手不足や経済的な苦境が挙げられます。ヤングケアラーの中には就学前から家族の世話をしている人も多く、ケアをする事が当たり前、普通のこととなってしまう助けを求めたり相談する事さえできない。一般的に家族のお手伝いをしている「良い子」というイメージがあるせいで弱音を吐けないといった葛藤もあるそうです。また、いつまでケアラーとしての生活が続くのかといった先の見えない不安も尽きないことと思います。

介護、看病は家族内の問題で大人であってもなかなか打ち明けにくいことも多いでしょう。日頃からお互いに「何かあった？」「助けられることはある？」と周りの人と言い合える関係性を築くことが重要だと強く感じました。

(文責 渡邊委員)

教育委員会会議録（令和5年12月～2月）議案一覧より抜粋

- 12月28日 富良野市学校管理規則の一部改正について
令和5年度全国体力・運動能力・運動習慣調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
富良野市立学校通級指導要綱の一部改正について
令和5年度富良野市一般会計補正報告（専決処分）について
- 1月26日 富良野市こども通園センター設置条例の一部改正について
- 2月13日 令和6年度教育行政執行方針について

定例会は傍聴もできますので、教育委員会に事前にご連絡ください